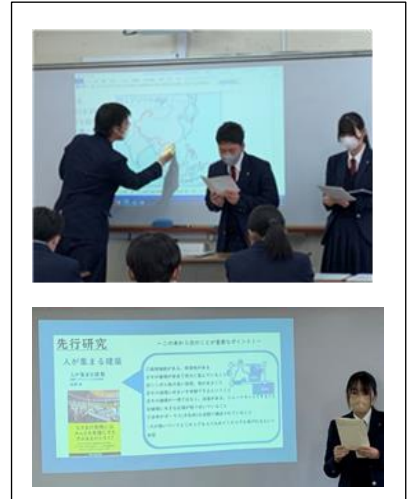


## 多治高の Have a Dream Project ～それぞれの学年の「探究」成果～

2月8日(木)、ついに1・2年生の探究発表会がスタートしました。1年生は「沖縄」探究、2年生はそれぞれのゼミに分かれてテーマを掘り下げる「探究ゼミ」です。

1年生はクラス毎に発表会を実施し、クラス代表を決定すべく、それぞれが真剣な表情で評価用紙に記入をしていました。いくつかのグループの発表とレジュメを見せてもらいましたが、様々な観点から6つも7つも仮説をたて、グループで役割分担をして調べた様子がよくわかりました。中には教室の前に地図を映しその場で書き込みながら説明をした班もありました(写真上段)。感想の中には、「問いでいき詰まったら問いを変更すればいいことがわかった。」と探究活動の重要なポイントを早々とつかんでいる人もおり、来年度の2年生探究ゼミに期待が膨らみました。1年A組は進路探究委員が司会者として前に座り進行をしていました。言われたことだけをそつなくこなすのではなく、「これやってみようんですけど…」「こうしたらもっと良くなると思うんだけど…」と生徒の皆さんからアイデアがでてくるのが嬉しく頼もしく、何より大事にしていきたいと思っています。



2年生はグループ研究もあれば、個人研究もありますが、きちんと先行研究をふまえて、自分の「オリジナル部分」が先人たちが考えてきたことのどこに位置づけるかを明らかにしようとする努力がよく伝わりました(写真下段)。そして、3年生はというと、探究ゼミで研究したことを学校推薦型選抜に活かし、国公立大学や私立大学でもたくさんの合格を報告してくれています。所属する学年やクラスは違っても、1つの大きなプロジェクトでつながっています。学ぶことは楽ではないが面白いと思ってくれると嬉しいです。(文責: 桑原)

### ♪3年の窓♪

### 刺激的な人文環境の中で

鼻血が出る程、世界史も日本史も全く受け付けなかった私は、だからこそ、数式を見て鳥肌が立つ生徒の気持ち痛い程よく分かる。一方で、事ある毎に、より偏差値の高い大学に身をおくことを勧めてきた。理由は2つある。人文環境を整えるため、そして学歴社会を首尾よく生き抜くためである。きな臭い後者は、巣立つ君たちに語るには相応しくないゆえ封印する。

人文環境、これは私の高校時分の造語である。自然環境や社会環境があるなら人文環境もあってよからう。人間集団ではなく、一人の人間が周りに及ぼす効果を勝手に人文環境と称した。物理学でいう“場”である。視認性はないものの、磁石の周りは磁場、電気の塊の周りは電場、大きな質量のある物体の周りは重力場、と称する空間に変質する。同様に、一人の優秀な人間の周りには“人間場”なるものができる。これが人文環境の実体である。同レベルの人物同士なら切磋琢磨とならう。人間は紛れもなく環境の産物で、良質な人文環境の整う大学等に身をおくことで成長できる。切磋琢磨でよく引く例が、湯川秀樹と朝永振一郎である。京都府立第一中学校(現洛北高校)、官立第三高等学校(現京都大学総合人間学部)、そして官立京都帝国大学でよきライバルだった二人は、共にノーベル物理学賞を受賞した。

私を育ててくれた岐阜県学寮(東京都文京区)は、正に刺激的な人文環境の坩堝であった。当寮の学習室での一幕である。或る日、数式をいじくり回している私に他大学の先輩が声を掛けてきた。“茂角、これ面白いから読んでみろ”これが“岩波に非ずんば本に非ず”と、岩波信仰の始まりであった。アドバイスを有難く受け止め、岩波新書“政治”を読み始めた。これを機に、岩波新書との格闘が始まる。岩波を読まずして学生たる資格なし。これをモットーに活字を無理やり頭に詰め込んだ。一人2段2m程の書架に対し、所狭しとばかりに岩波新書がズラリと並ぶ先輩方が少なくない中、寒々とした私の書架に先の“政治”が並んだ。君たちに望む。良質なそして刺激的な人文環境に身をおくことを。(文責: 茂角)

## ♪2年の窓♪

### 「頭がよくなる瞬間」

教育学の世界では「人間の頭がよくなる瞬間はいつなのか？」というのが脳の実験によって明らかになっています。頭がよくなる瞬間・・・と聞くと、「授業を受けているとき」とか「本を読んでいるとき」というインプットのイメージがあると思いますが、実は違います。実際には「アウトプットしたとき」が一番頭がよくなるのです。アウトプットというのは情報を「使う」ことにほかなりません、仕入れた情報を使って問題を「解決」したり、その情報を自分なりの言葉で人に「説明」したり、またはその情報を使って新しい「質問」を考えてみることを言います。

(問題を解くとき) 問題を解こうとすると、人間は自分の知識を整理して、インプットをどう活かそうかと考える必要があります。

(人に説明をするとき) 誰かに何かを説明するという事は、自分でその背景や本質を理解していなければなりません。インプットをきちんと整理しなければ説明できず、また、説明するタイミングでインプットを整理する必要が生まれてきます。

(質問をするとき) 自分がインプットした知識の中で穴になっている部分を探した上で、必要な情報が何なのかを整理する必要があります。

このように問題を解くのも、説明するのも、インプットの「整理」が必要です。だからこそ、アウトプットのタイミングでこそ頭はよくなり、インプットだけをやっても意味はないのです。もちろんインプットしなくては材料がないのですから、勉強におけるインプットとアウトプットの黄金比率は3対7といわれています。

これを踏まえると君たちが行うゼミ発表は頭の良くなる訓練の一つです。全力を尽くして原稿を作り、発表に対してどしどし質問してください。

《文責：川嶋》

## ♪1年の窓♪

### ニュースを見よう！ ニュースを読もう！！

最近新聞などの紙のメディアに代わってネット上のデジタルメディアが広まり、ニュースに接する機会が大きく変容しているように思います。最新ニュースが容易に入手できるようになった反面、ニュースを深く理解し真偽や意義を判断する機会が激減しています。このためニュースを自分の学習や進路などに活用することが軽視され、益々様々な出来事や変化に無関心な姿勢が広まっているのではないかと危惧しています。

今回「探究の時間」の後半に実施した「バイアス」や「沖縄」に関する探究活動も、ニュースに親しんでいる生徒は探究「ネタ」に困らず問い立てや仮説立てにもニュース内容を活用できたと思います。また、こうした探究活動だけでなく、文系・理系を問わずニュースを活用してより充実した進路学習や進路決定につなげることができます。そこで、以下に私のニュース活用法の一部を紹介するので参考にしてください。

#### ①NEWS WEB「ニュース深堀」(NHKホームページ)

テレビ等で放送しているNHKのニュースの特集記事をホームページに掲載したものです。因みに以前紹介した「ブルーカーボン(海藻等による二酸化炭素の吸収)」の話は2022年7月6日に掲載されたものです。ニュースはもちろん、その背景や課題についてもわかりやすく解説されているのでお勧めです。

#### ②『朝日キーワード』(朝日新聞社)、『日本の論点』(文藝春秋社)

年一回(年末年始)発行される年鑑の一種です。その年に注目されたニュースを取り上げ解説や専門家の主張をわかりやすく掲載しています。図書館や進路資料室にも置いてありますので一度手に取ってみてください。

#### ③「ニュースで学ぶ現代英語」、NHK WORLD JAPAN (NHKホームページ、ラジオ第2など)

上級者、英語が好きな人にお勧め。後者は海外や外国人向けにNHKが放送しているサイトですが、我々日本人にとっても興味深いニュースが取り上げられています。前者は後者のニュースを利用した英語学習番組で、ホームページだけでなく、AMラジオNHK第二でも視聴することができます。(文責：今井)